令和８年度　熊本県阿蘇中央高等学校　年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
言語文化	農と食の科学科　緑と水の科学科 社会福祉科・ １年	２		○	

使用教材	□教科書　言語文化（大修館書店） □副教材　常用漢字オールクリア（尚文出版） □副教材　常用漢字オールクリア　トレーニングノート（尚文出版）

科目の目標		
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を、ＩＣＴや辞書，補助教材を用いて身に付ける。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で協働的な学習を通して伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	様々な文学作品に興味を持ち、言葉がもつ価値への認識を深めるとともに，生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ，我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち，言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
４０％	３０％	３０％

<table>
<tr><th colspan="3">評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）</th></tr>
<tr><th>知識・技能</th><th>思考・判断・表現</th><th>主体的に学習に取り組む態度</th></tr>
<tr><td>B 評価の規準
［わかった・できた］
・ワークシートや課題に対して自ら取り組み、内容を理解したうえで適切な答えを記入することができる。</td><td>B 評価の規準
［よく考え、意見を持ち、説明できた］
・発問やワークシートの問いに対して、本文の内容を踏まえて自分の考えをまとめることができる。</td><td rowspan="2">B 評価の規準
［粘り強さ］
・学習や活動に積極的に取り組み、級友との対話を通して理解を深めようとする姿が見られる。
・課題を提出日までに不備のない状態で提出している。
［自分なりの工夫］
・教師の説明をメモしたり、教科書本文やワークシートの大事な箇所にマーカーやアンダーラインをいれるなど工夫している。</td></tr>
<tr><td colspan="2">※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、主に定期考査や単元テストで判断します。</td></tr>
<tr><td colspan="3">特に顕著な成果・内容の場合はA 評価とします。</td></tr>
</table>

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	ことばと出会う「言葉の森を育てよう」	2	・音読と語句・漢字の確認 ・言葉が果たしている役割 ・日常使っている言葉と問題点
5	古文に親しむ「古文への招待」「児のそら寝」	4	・古文の言葉と仮名遣い ・音読と重要古語の確認 ・児と僧たちの行動 ・児と僧たちの心情の移り変わり
	漢文に親しむ「訓読のきまり」「格言」	2	・訓読のきまり ・音読と重要句法の確認
6	現代に生きることば「守株」「蛇足」	6	・話の内容の理解 ・教訓の意義
7	表現を味わう「水かまきり」	4	・音読と語句・漢字の確認 ・登場人物の人間関係や心理の読解
8	物語を受け継ぐ「羅生門」	1	・音読と語句・漢字の確認 ・構成の把握 ・登場人物の心情の変化 ・古典作品との比較
9		8	
10		8	
11	随筆を楽しむ「徒然草」「枕草子」	3	・古文の言葉と仮名遣いの確認 ・音読と重要古語の確認 ・文章の内容を正確に読み取る
12		6	
1	古人に学ぶ「論語」	7	・訓読のきまり ・音読と重要句法の確認 ・文章の内容を正確に読み取る ・孔子の考え方を理解する ・自分の考えを深める
2	物語の広がり「伊勢物語」	4	・古文の言葉と仮名遣いの確認 ・音読と重要古語の確認 ・登場人物の行動、場面の展開の把握 ・和歌に表れた心情を読み取る
3		3	

令和８年度　熊本県阿蘇中央高等学校　年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
地理総合	農と食の科学科１年 緑と水の科学科１年 社会福祉科１年	2		○	

使用教材	□教科書　地理総合（東京書籍） □地図帳　基本地図帳（山川出版社） □ノート　地理総合ワークノート（東京書籍）

科目の目標		
社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ，課題を追究したり解決したりする活動を通して，広い視野に立ち，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理に関わる諸事情に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを系統的に理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用い、ICT も活用しながら調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技術を身に付けるようにする。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、協働的な学習をとおして地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事情について、地域に関する学びや体験等を踏まえてよりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
５０％	３０％	２０％

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
［知識］ **B　地理的事象に関する用語を知っている。** ・重要語句や重要事項を答えたり、その内容を説明したりすることができる。 **A　地理的事象を概念として理解することができる。** ・習ったことを一般化できる形に抽象化して整理したり説明することができる。 ――――――――― **［技能］** **B　提示された資料から必要な情報を読み取ることができる。** ・提示された地図やその他の図表、グラフなどの資料から、必要な情報を読み取ることができる。 **A　適切な資料を選び、必要な情報を読み取ることができる。** ・地図やその他の図表、グラフなどから、適切な資料を選び、必要な情報を読み取ることができる。	**［思考］** **B　習った地理的事象を他の事柄にあてはめることができる。** ・抽象化した既習事項と別の地理的事象との構造的な共通点を見出すことができる。 **A　もとの事柄とあてはめた事柄とを比べることができる。** ・複数の事柄を、共通する構造で捉えて、さらなる共通点を推測したり自然や気候を含む様々な条件に起因する相違点などを挙げたりして整理することができる。 ――――――――― **［判断］** **B　地理的事象に関する判断基準を把握できている。** ・その事柄に関する課題は何か、その課題に対して誰がどのような考え方を持っているかについて整理することができる。 **A　地理的事象について価値判断を行うことができる。** ・その事柄は、誰にとってどのような意味があるのか、それぞれの立場から説明できる。 ――――――――― **［表現］** **B　地理的事象について自分の考えを述べることができる。** ・習った内容を比較したり価値判断を行ったりしたことをもとにして自分の考えを述べることができる。 **A　地理的事象についての自分の考えを、適切な方法で表すことができる。** ・文章や地図、グラフ、その他の図表などを用いて、他者に効果的に伝えることができる。	**［自己調整学習･粘り強い取り組み（学習方法）］** **B　学習の振り返りを行いうことができる。** ・自らの学び方を振り返り、改善しようとすることができる。 **A　振り返りをもとに、学び方を継続的に改善することができる。** ・自らの学び方を振り返り継続的に改善することができ、その成果が、「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点の成績にも表れている。 ――――――――― **［自己調整学習･粘り強い取り組み（学習の深まり）］** **B　自分で問いを立てることができる。** ・疑問に感じた点やさらに深めたい部分などを自分で見つけ、問いを立てることができる。 **A　自分とのつながりや地球的･地理的諸問題を意識した問いを立てることができる。** ・地理的事象と自分や地球的・地理的諸問題とのつながりに興味を向けることができ、それらを深めるための問いを立てることができる。

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	球面上の世界	1	・位置の基準～地球上の緯度と経度 ・時間の基準～時差と標準時
	日本の位置と領域	2	・視点を変えてみた日本の位置 ・国家とその領域 ・海に広がる日本の領域 ・日本の領域に関する問題
	国家や国家間の結びつき	2	・国家間の結びつき ・交通・通信による結びつき ・交易・物流による結びつき ・観光による結びつき
5	暮らしのなかの地図と GIS	2	・身の回りの地図を集める ・主題図・グラフの見方 ・地理院地図の活用 ・GIS の仕組みと役割
	地形と生活文化	2	・変動帯とプレート ・河川がつくる地形と生活 ・海岸の地形と生活
6	気候と生活文化	2	・大気の循環 ・気候の地域性 ・ケッペンの気候区分 ・熱帯・乾燥帯・温帯・亜寒帯・寒帯の自然環境と生活
	産業と生活文化	1	・農業・工業・サービスの発展と生活文化
	宗教・言語と生活文化	2	・宗教と言語の分布と生活文化 ・移民と難民 ・生活文化の多様性
7	経済発展と生活文化の変化 ～東アジア	3	・経済発展を支える自然・農業と生活文化 ・市場経済化と生活文化の変化～中国 ・輸出による発展と生活文化の変化～韓国 ・経済発展による変化と課題
	日本の位置と領域	2	・視点を変えてみた日本の位置 ・国家とその領域 ・海に広がる日本の領域 ・日本の領域に関する問題
8	水の恵みと生活文化 ～南アジア	2	・河川による恵みと生活文化 ・水の恵みによる発展と課題

9	イスラーム社会の多様性と生活文化 ～イスラーム圏	3	・乾燥地域とイスラームの社会 ・経済発展とイスラーム社会の変化 ・イスラーム圏の現状と課題
	多様な気候と生活文化 ～アフリカ	2	・多様な自然環境と生活文化 ・経済成長と自然環境の変化による課題
10	経済統合による生活文化の変化 ～EU と周辺諸国	3	・経済発展の礎となった自然環境と農業 ・産業・交通の発達による一体化 ・統合を進める背景と言語・宗教の多様性 ・経済統合と政治統合の進展と課題
	寒冷な気候と生活文化 ～ロシア	2	・寒冷な気候と生活・産業 ・寒冷地域の開発による成長と課題
11	グローバル化による生活文化の変化 ～アメリカ・カナダ	3	・経済発展の基盤となった社会の多様性 ・大規模な農業とグローバルな食文化 ・グローバル化による変化と課題
	土地の開発による生活文化の形成 ～ラテンアメリカ	2	・開発による農牧業の発展と生活文化 ・開発による発展と社会にみられる課題
12	植民と移民による生活文化 ～オセアニア	2	・植民による開発と生活文化 ・移民と多文化社会にみられる課題
	各地域の生活文化を比較してみよう	1	・各地域の生活文化を比較してみよう
	地球環境問題	2	・環境問題と持続可能な社会 ・国境を超える汚染 ・森林減少・砂漠化とその対策 ・気候変動とその対策
1	資源・エネルギー問題	2	・鉱物資源・エネルギー資源とその課題 ・資源のリサイクル・再生可能エネルギー
	人口・食糧問題	2	・人口と人口問題 ・世界各地の人口問題 ・二つの食糧問題 ・食糧問題の背景と解決策～サブサハラ
	「誰も置き去りにしない世界」を考える	1	・「誰も置き去りにしない世界」を考える
2	日本の自然災害と防災	5	・世界地図でとらえる自然災害のリスク ・世界からみた日本の地形の特色、世界からみた日本の気候の特色 ・風水害と防災 ・火山の噴火と防災 ・地震・津波と防災 ・都市型災害と防災 ・防災への心構え～自助・共助・公助～
3	地図を防災・避難行動に役立てよう	1	・地図を防災・避難行動に役立てよう

	生活圏の諸課題と地域調査	2	・地理の力で地域の課題を解決しよう ・主題図からみた日本の特徴と課題 ・地域調査①　事例地域の選定～事前調査 ・地域調査②　現地調査～調査地図の作成 ・地域調査③　他地域との比較～まとめ
	・地域調査の結果を発表しよう	1	・地域調査の結果を発表しよう

令和８年度　熊本県阿蘇中央高等学校　年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
数学Ⅰ	農と食の科学科１年 緑と水の科学科１年 社会福祉科　　１年	3		○	

使用教材	
	□教科書　新高校の数学Ⅰ（数研出版） □問題集　ポイントノート数学Ⅰ（数研出版）

科目の目標		
（１）数と式,図形と計量,２次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに,事象を数学化したり,数学的に解釈したり,数学的に表現･処理したりする技能を身に付けるようにする。 （２）命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的に見たり目的に応じて適切に変形したりする力,図形の構成要素間の関係に着目し,図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力,関数関係に着目し,事象を的確に表現してその特徴を表,式,グラフを相互に関連付けて考察する力,社会の事象などから設定した問題について,データの散らばりや変量間の関係などに着目し,適切な手法を選択して分析を行い,問題を解決したり,解決の過程や結果を批判的に考察し判断する力を養う。 （３）数学のよさを認識し,数学を活用しようとする態度,粘り強く数学的論拠に基づいて判断しようとする態度,問題解決の過程を振り返って考察を深めたり,評価・改善したりしようする態度や創造性の基礎を養う。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数を実数まで拡張する意義を理解し、簡単な無理数の四則計算をすることができる。2 次の乗法公式及び因数分解の公式を理解できる。不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、1 次不等式の解を求めることができる。 2 次関数の値の変化やグラフの特徴について理解できる。2 次関数の最大値や最小値を求めることができる。2 次方程式の解と 2 次関数のグラフとの関	問題を解決する際に、既に学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすることができる。不等式の性質を基に１次不等式を解く方法を考察することができる。日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、1 次不等式を問題解決に活用することができる。 2 次関数の式とグラフとの関係について、多面的に考察することができる。2 つの数量の関係	数学のよさを認識し数学を活用しようとする。粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。

係について理解できる。2 次不等式の解と 2 次関数のグラフとの関係について理解し、2 次関数のグラフを用いて 2 次不等式の解を求めることができる。 　鋭角の三角比の意味と相互関係について理解できる。三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求めることができる。正弦定理や余弦定理について三平方の定理と関連付けて理解し、三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。 　データの用語の意味やその用い方を理解することができる。情報機器を用い、データを表やグラフに整理し、分散や標準偏差などの基本的な統計量を求めることができる。	に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決することができる。 　図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現するとともに、定理や公式を使って導くことができる。図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決することができる。 　集合の考えを用いて論理的に考察し、簡単な命題を証明することができる。 データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察することができる。目的に応じて複数のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析することができる。	

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
５０％	２０％	３０％

<table>
<tr><th colspan="3">評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）</th></tr>
<tr><th>知識・技能</th><th>思考・判断・表現</th><th>主体的に学習に取り組む態度</th></tr>
<tr><td>B 評価の規準
［わかった・できた］
・学習内容を暗記するのでなく、図形や文字などから概念として理解できる。
・練習問題などの演習に自ら取り組み、立式から計算まで完結して解答できる。</td><td>B 評価の規準
［よく考え、意見を持ち、説明できた］
・発展的な問題にも学習した知識を組み合わせて、論理的に考察して解法を表現できる。</td><td rowspan="2">B 評価の規準
［粘り強さ］
・課題に計画的に真剣に取り組み、仲間と協力して考え、短期・中期の課題を解決していくことができる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、
定期考査で主に判断します。</td></tr>
<tr><td colspan="3">特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="4">学習計画</th></tr>
<tr><th>月</th><th>単元</th><th>時数</th><th>学習項目</th></tr>
<tr><td>4</td><td rowspan="4">第１章　数と式
第１節　数と式の計算</td><td>2</td><td>計算の基本、単項式と多項式</td></tr>
<tr><td>5</td><td>4</td><td>多項式の加法と減法、多項式の乗法</td></tr>
<tr><td rowspan="2"></td><td>7</td><td>展開の公式、因数分解、工夫</td></tr>
<tr><td>6</td><td>4</td><td>根号を含む式の計算、実数</td></tr>
<tr><td>7</td><td>第１章　数と式
第２節　１次不等式</td><td>6</td><td>１次方程式
不等式、不等式の解</td></tr>
<tr><td>8</td><td rowspan="2">第２章　２次関数
第１節　２次関数のグラフ</td><td>2</td><td>関数、１次関数のグラフ</td></tr>
<tr><td>9</td><td>8</td><td>２次関数のグラフ</td></tr>
<tr><td>10</td><td rowspan="2">第２章　２次関数
第２節　２次関数の値の変化</td><td>6</td><td>２次関数の最大値，最小値、
グラフと２次方程式</td></tr>
<tr><td rowspan="2"></td><td>4</td><td>グラフと２次不等式</td></tr>
<tr><td>11</td><td rowspan="2">第３章　図形と計量
第１節　三角比</td><td>3</td><td>直角三角形、三角比、三角比の利用</td></tr>
<tr><td>4</td><td>三角比の相互関係、鈍角の三角比</td></tr>
<tr><td>12</td><td rowspan="2">第３章　図形と計量
第２節　三角形への応用</td><td>5</td><td>正弦定理、余弦定理</td></tr>
<tr><td>1</td><td>3</td><td>三角形の面積</td></tr>
<tr><td>2</td><td rowspan="2">第５章　データの分析</td><td>4</td><td>データの整理、データの代表値</td></tr>
<tr><td>3</td><td>4</td><td>データの散らばり、データの相関</td></tr>
</table>

令和８年度　熊本県立阿蘇中央高等学校　年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
科学と人間生活	農と食の科学科・１年 緑と水の科学科・１年 社会福祉科・１年	2		○	

使用教材	□教科書　改訂版　科学と人間生活（数研出版）

科目の目標		
自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成する。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技術を身に付けるようにする。	観察、実験等を行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
４０％	３０％	３０％

<table>
<tr><th colspan="3">評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）</th></tr>
<tr><th>知識・技能</th><th>思考・判断・表現</th><th>主体的に学習に取り組む態度</th></tr>
<tr><td>B 評価の規準
［わかった・できた］
・ワークシートや課題に対して自ら取り組み、内容を理解したうえで適切な答えを記入することができる。
・実験において、仮説を立証するために必要な操作を適切に行うことができる。</td><td>B 評価の規準
［よく考え、意見を持ち、説明できた］
・授業の導入時や各種問いについて、専門用語を用いて説明することができる。
・実験において、知識や条件をもとに仮説を立て、実験後に考察して結論を出すことができる。</td><td rowspan="2">B 評価の規準
［粘り強さ］
・学習活動や実験に真剣に取り組み、安全・スムーズに進むようにするために、仲間と協力し考えながら、仮説を立てたり考察したりすることができる。
［課題に対する調整力］
・仲間の意見や考えを聞いたうえで、自分の意見や考えに反映させることができる。
※眠っている人、私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人はＣ評価となります。</td></tr>
<tr><td colspan="2">主な評価場面
※座学・実験：「知識・技能」「思考・判断・表現」
「主体的に学習に取り組む態度」
※定期考査：「知識・技能」「思考・判断・表現」。</td></tr>
<tr><td colspan="3">特に顕著な成果・内容の場合はＡ評価とします。</td></tr>
</table>

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	序編　　科学技術の発展	1 2 3	人間生活の歴史
	第 2 編　生命の科学 第 2 章　微生物とその利用	1 2	身まわりの微生物
		3 4	微生物とその発見の歴史
5		5 6	発酵食品への微生物の利用
		7 8	乳酸発酵とアルコール発酵
6		9 10	医薬品への微生物の利用
		11 12 13	生態系における微生物
		14 15	環境の浄化と微生物
7	第 3 編　光や熱の科学 第 1 章　光の性質とその利用	1 2	光の色
		3 4 5	光の直進と反射
8		6 7	光の屈折と全反射
9		8 9 10	光の分散と散乱
		11 12	光の回折と干渉
		13 14	電磁波

10		15	電磁波の利用
	第１編　物質の科学 第１章　材料とその利用	1 2	金属と人間生活
		3 4 5	身のまわりの金属と製錬
11		6 7	金属のさびとその防止
		8 9	プラスチックとその性質
12		10 11	プラスチックの成り立ち
		12 13	さまざまなプラスチック
		14 15	資源の再利用
1	第４編　宇宙や地球の科学 第１章　太陽と地球	1 2	日本列島とプレート
		3 4	地震のしくみと地震活動
		5 6	地震による災害
2		7 8 9	マグマがつくる火山と景観
		10 11	火山がもたらす恵みと災害
		12 13	水のはたらきと自然景観
		14 15	土砂災害と洪水
3	終編　これからの科学と人間生活	1 2	課題研究の進め方

令和８年度　熊本県阿蘇中央高等学校　年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
体育	1 年 AGW 科	3		○	

使用教材	□現代高等保健体育大修館書店（教科書） □現代高等保健体育大修館書店（ノート）

科目の目標		
体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次の通り育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。	運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な課題解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
４０％	３０％	３０％

<table>
<tr><th colspan="3">評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）</th></tr>
<tr><th>知識・技能</th><th>思考・判断・表現</th><th>主体的に学習に取り組む態度</th></tr>
<tr><td>B 評価の規準
［わかった・できた］
・活動を通して技術の名称や実践、ルールやマナーを理解している。
・課題解決法、練習法、試合法を理解している。</td><td>B 評価の規準
［考えや意見を持ち、説明できた］
・毎時の振り返りシートに自己評価を記入し、次時の時間に繋げようとしている。
・互いに助け合い、教えあい、高め合おうとしている。
・役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとしている。</td><td rowspan="2">B 評価の規準
［粘り強く学習に取り組んだ］
・授業に積極的に参加し、準備運動の声出し、活動時の周囲への声掛け、準備･片付けを積極的に行おうとしている。
・活動の目的を理解し、実践しようとしている。
・他者と協力して周囲に配慮をしようとしている。
・健康・安全を確保しようとしている。</td></tr>
<tr><td colspan="2">※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、スキルテスト、振り返りシート、体育理論で判断。</td></tr>
<tr><td colspan="3">特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="4">学習計画</th></tr>
<tr><th>月</th><th>単元</th><th>時数</th><th>学習項目</th></tr>
<tr><td rowspan="2">4</td><td>ダンス</td><td>10</td><td>現代的なリズムのダンス</td></tr>
<tr><td>体つくり運動</td><td>3</td><td>体ほぐし運動
体の動きを高める運動
実生活に生かす運動の計画</td></tr>
<tr><td>5</td><td>球技（選択①）</td><td>10</td><td>〇ゴール型
・サッカー
・バスケットボール
・ハンドボール
〇ネット型
・バドミントン
・バレーボール</td></tr>
</table>

			○ベースボール型 ・ソフトボール
6	球技（選択①）	12	○ゴール型 ・サッカー ・バスケットボール ・ハンドボール ○ネット型 ・バドミントン ・バレーボール ○ベースボール型 ・ソフトボール
	体育理論	2	スポーツの始まりと変遷 文化としてのスポーツ オリンピックとパラリンピックの意義 スポーツが経済に及ぼす効果 スポーツの高潔さとドーピング スポーツと環境
7	球技（選択②）	3	○ゴール型 ・サッカー ・バスケットボール ・ハンドボール ○ネット型 ・バドミントン ・バレーボール ○ベースボール型 ・ソフトボール
	体育理論	2	スポーツの始まりと変遷 文化としてのスポーツ オリンピックとパラリンピックの意義 スポーツが経済に及ぼす効果 スポーツの高潔さとドーピング スポーツと環境
8	球技（選択③）	3	○ゴール型 ・サッカー ・バスケットボール ・ハンドボール ○ネット型 ・バドミントン ・バレーボール ○ベースボール型

			・ソフトボール
9	球技（選択③）	10	○ゴール型 ・サッカー ・バスケットボール ・ハンドボール ○ネット型 ・バドミントン ・バレーボール ○ベースボール型 ・ソフトボール
	体育理論	2	スポーツの始まりと変遷 文化としてのスポーツ オリンピックとパラリンピックの意義 スポーツが経済に及ぼす効果 スポーツの高潔さとドーピング スポーツと環境
10	球技（選択④）	12	○ゴール型 ・サッカー ・バスケットボール ・ハンドボール ○ネット型 ・バドミントン ・バレーボール ○ベースボール型 ・ソフトボール
	体育理論	2	スポーツの始まりと変遷 文化としてのスポーツ オリンピックとパラリンピックの意義 スポーツが経済に及ぼす効果 スポーツの高潔さとドーピング スポーツと環境
11	陸上競技（長距離走）	6	２０分間走・４キロ走
12	陸上競技（長距離走）	8	２０分間走・４キロ走
1	ダンス	9	現代的なリズムのダンス
	体つくり運動	3	体ほぐし運動 体の動きを高める運動 実生活に生かす運動の計画
2	ダンス	9	現代的なリズムのダンス
	体つくり運動	4	体ほぐし運動

			体の動きを高める運動 実生活に生かす運動の計画
3	ダンス	7	現代的なリズムのダンス

令和８年度　熊本県阿蘇中央高等学校　年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
保健	1 年 AGW 科	1		○	

使用教材	□現代高等保健体育大修館書店（教科書） □現代高等保健体育大修館書店（ノート）

科目の目標		
保健の見方・考え方を働かせ，合理的，計画的な解決に向けた学習過程を通して，生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し，改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに，技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて思考し判断するとともに，目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し，明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
４０％	３０％	３０％

<table>
<tr><th colspan="3">評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）</th></tr>
<tr><th>知識・技能</th><th>思考・判断・表現</th><th>主体的に学習に取り組む態度</th></tr>
<tr><td>B 評価の規準
［わかった］
・単元の内容を理解している。
・単元テストや小テストの内容を理解したり振り返りを大切にしたりしている。</td><td>B 評価の規準
［考えや意見を持ち、説明できた］
・単元の内容を理解し、文章表現しようとしている。
・グループワークでの話し合いにより、単元の学びを深めようとしている。
・調べ学習の成果を分かりやすくスライドにまとめたり説明したりしようとしている。</td><td rowspan="2">B 評価の規準
［粘り強く学習に取り組んだ］
・互いに協力して教え合おうとしている。
・役割を積極的に引き受け、自己の責任を果たそうとしている。
・授業に積極的に参加しようとしている。</td></tr>
<tr><td colspan="2">※単元テスト、小テスト、班活動、発表、主体的に学習に取り組む態度</td></tr>
<tr><td colspan="3">特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="4">学習計画</th></tr>
<tr><th>月</th><th>単元</th><th>時数</th><th>学習項目</th></tr>
<tr><td rowspan="8">4
5
6
7</td><td>健康の考え方と成り立ち
私たちの健康の姿</td><td>1</td><td>講義、グループワーク、小テスト</td></tr>
<tr><td>生活習慣病の予防と回復</td><td>1</td><td>講義、グループワーク、小テスト</td></tr>
<tr><td>がんの原因と予防
がんの治療と回復</td><td>1</td><td>講義、グループワーク、小テスト</td></tr>
<tr><td>運動と健康</td><td>1</td><td>講義、グループワーク、小テスト</td></tr>
<tr><td>食事と健康</td><td>1</td><td>講義、グループワーク、小テスト</td></tr>
<tr><td>休養、睡眠と健康</td><td>1</td><td>講義、グループワーク、小テスト</td></tr>
<tr><td></td><td>1</td><td>単元テスト</td></tr>
<tr><td rowspan="4">8
9
10
11</td><td>喫煙と健康</td><td>1</td><td>講義、グループワーク、小テスト</td></tr>
<tr><td>飲酒と健康</td><td>1</td><td>講義、グループワーク、小テスト</td></tr>
<tr><td>薬物乱用と健康</td><td>1</td><td>講義、グループワーク、小テスト</td></tr>
<tr><td>精神疾患の特徴</td><td>1</td><td>講義、グループワーク、小テスト</td></tr>
</table>

12	精神疾患の予防 精神疾患からの回復	1	講義、グループワーク、小テスト
		1	単元テスト
	現代の感染症	1	講義、グループワーク、小テスト
	感染症の予防	1	講義、グループワーク、小テスト
	性感染症・エイズとその予防	1	講義、グループワーク、小テスト
	健康に関する意思決定・行動選択 健康に関する環境づくり	2	調べ学習、グループワーク、発表
		1	単元テスト
1 2 3	事故の現状と発生要因 安全な社会の形成	1	講義、グループワーク、小テスト
	交通における安全	1	講義、グループワーク、小テスト
	応急手当の意義とその基本	1	講義、グループワーク、小テスト
	日常的な応急手当	1	講義、グループワーク、小テスト
	心肺蘇生法	1	講義、グループワーク、小テスト
	救急処置法	1	実習
		1	単元テスト

令和８年度　熊本県阿蘇中央高等学校　年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
音楽１	普通科、探究科、総合ビジネス科、農と食の科学科、緑と水の科学科、社会福祉科１年	２		○	

使用教材	□教科書　On！１　（音楽之友社） □高校生の歌集　つどい

科目の目標		
音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけるようにする。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
４０％	３０％	３０％

<table>
<tr><th colspan="3">評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）</th></tr>
<tr><th>知識・技能</th><th>思考・判断・表現</th><th>主体的に学習に取り組む態度</th></tr>
<tr><td>B 評価の規準
［わかった・できた］
・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけ、歌唱・器楽・創作で表現している。</td><td>B 評価の規準
［自らよく考え、表現意図を持っている］
・題材の特徴を捉え、主題を考え、構想している。
・自己のイメージをもって歌唱、器楽表現ができている。</td><td rowspan="2">B 評価の規準
［粘り強さ］［自分なりの工夫］
［主体的・協働的］
・学習活動に真剣に取り組んでいる。
・自分なりの表現を模索し、工夫しながら取り組んでいる。
・他者の表現の良さを感じ、仲間と協力して考え、発表ができる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、実技試験で主に判断します。</td></tr>
<tr><td colspan="3">特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="4">学習計画</th></tr>
<tr><th>月</th><th>単元</th><th>時数</th><th>学習項目</th></tr>
<tr><td rowspan="3">4</td><td rowspan="3">【歌唱】
様々な発声にチャレンジ</td><td rowspan="3">6</td><td>校歌/メロディー</td></tr>
<tr><td>発声の仕組みを知ろう</td></tr>
<tr><td>翼をください・手紙</td></tr>
<tr><td>5
6</td><td>【歌唱】歌の楽しみ
曲にふさわしい発声で表情豊かに歌おう。
【鑑賞】
音楽を形づくっている要素に注目して，曲のよさや美しさを探ろう</td><td>10</td><td>【歌唱】
少年時代/小さな空/この道/花の街/夏の思い出
【鑑賞】
バイオリン協奏曲ホ短調作品６４
ポロネーズ第６番変イ長調「英雄」</td></tr>
<tr><td>7</td><td>実技試験
【器楽】
ギターの楽しみ</td><td>6</td><td>【器楽】
ギターの正しい奏法を身につける。
喜びの歌/きらきら星</td></tr>
<tr><td>8
9</td><td>【器楽】
ギターの楽しみ（タブ譜・コード譜）</td><td>8</td><td>【器楽】
エーデルワイス/広い河の岸辺
【歌唱】</td></tr>
</table>

	【歌唱】 原語で歌おう		オンブラ・マイ・フ/Caro mio ben/ 春へのあこがれ/野ばら
10 11	【鑑賞】 オペラ＆ミュージカルを味わおう 【創作】 創作表現の探究	10	【鑑賞】 オペラ「カルメン」 ミュージカル「レ・ミゼラブル」 歴史とあらすじの学びを深める 【創作】 コード進行からメロディーを作ろう
11 12	【器楽】 バイオリンを弾こう 実技試験	8	【器楽】 きらきら星/むすんでひらいて/ Amazing Grace
1 2	【歌唱】 アンサンブルの楽しみ	8	【歌唱】 ホール・ニュー・ワールド/夢やぶれて 民衆の歌/おおシャンゼリゼ
3	【鑑賞】 世界の諸民族の音楽 郷土の伝統音楽 1年間のまとめ	4	【鑑賞】 世界の諸民族の音楽と日本の伝統音楽について学び、曲を鑑賞する。

令和８年度　熊本県阿蘇中央高等学校　年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
美術Ⅰ	普通科、探究科、総合ビジネス科、農と食の科学科、緑と水の科学科、社会福祉科・１年	2		○	

使用教材	□新・高校生の美術１（日本文教出版）

科目の目標		
美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、造形的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
３３％	３３％	３４％

<table>
<tr><th colspan="3">評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）</th></tr>
<tr><th>知識・技能</th><th>思考・判断・表現</th><th>主体的に学習に取り組む態度</th></tr>
<tr><td>Ｂ評価の規準
［わかった・できた］
・題材に関する知識を学び取るっている。
・題材を表現するための道具を扱う技術、技法を理解している。
・美術作品の良さ、作家の表現の意図や工夫を学び取ろうとしている。</td><td>Ｂ評価の規準
［よく考え、考えをまとめ、表現できた］
・題材の特徴を捉え、主題を考え、構想している。
・構想をもとに素材の特性を理解しながら表現しようとしている。</td><td rowspan="2">Ｂ評価の規準
［粘り強さ］［自分なりの工夫］
・学習活動に真剣に取り組んでいる。
・構想をもとに自分なりの表現を模索し、工夫しながら取り組んでいる。
・他者の作品の良さを感じ、学び取ろうとしている。

※作品の未提出や私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人はＣ評価になります。</td></tr>
<tr><td colspan="2">※定期考査なし。授業態度、作品制作、提出物で主に判断します。</td></tr>
<tr><td colspan="3">特に顕著な成果・内容の場合はＡ評価とします。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="4">学習計画</th></tr>
<tr><th>月</th><th>単元</th><th>時数</th><th>学習項目</th></tr>
<tr><td rowspan="2">4</td><td>オリエンテーション</td><td>1</td><td>・年間の目標や美術の領域を理解する</td></tr>
<tr><td rowspan="2">身近なものを描く
「ものの魅力や愛着を表す」
～鉛筆デッサン～</td><td rowspan="2">8</td><td rowspan="2">・鉛筆の削り方
・鉛筆の描く時の持ち方
・鉛筆の調子の乗せ方
・立体表現
・陰影のつけ方
・質感表現
・果物、野菜のデッサン
・相互鑑賞</td></tr>
<tr><td>5</td></tr>
<tr><td rowspan="2">6</td><td rowspan="2">マークやサインのデザイン
「視覚で伝える」
～ロゴデザイン～</td><td rowspan="2">14</td><td rowspan="2">・ドローイングアプリ（アイビスペイント）の扱い方を身に付ける
・ロゴマークの分析をもとにデザイナーの表現意図や工夫を学ぶ
・オリジナルのロゴデザインを考える
・デザイン画をドローイングアプリで清書する</td></tr>
<tr><td>7</td></tr>
</table>

			・相互鑑賞
8			
9 10	身近な素材と立体表現 「命を吹き込むアートの力」	12	・彫刻家三沢厚彦の作品「ＡＮＩＭＡＬＳ」を鑑賞し、単純化されても動物の本質に迫る表現の面白さを学ぶ ・自分なりの表現で動物の絵を描く ・絵をもとに断熱材を使い、動物像を制作する ・相互鑑賞
11 12	版画の魅力 「干支の版画を刷る」 ～消しゴムハンコ～	10	・消しゴムハンコ作家の制作の様子や作品を見て特徴や制作手順、技法を学ぶ ・練習課題に取り組み、カッターなどの道具を扱う技能を高める ・干支の動物の特徴を踏まえながら個性的なデザインを考える ・デザイン案をもとに消しゴムハンコを彫り、紙に刷る ・相互鑑賞
1	「西洋美術史」	5	・古代から現代までの西洋美術の特徴を知ることで諸外国の美術作品や文化遺産などから美意識や創造性などを感じ取る。 ・日本美術との相違点や共通点などを考え、見方や感じ方の理解を深める。
2 3	点が生み出す表情 「ピクセルアート（ドット絵)」	10	・ピクセルアートの美術作品を鑑賞し、特徴を学び取る ・色についての基礎知識を学ぶ ・平塗りの技法を身に付ける ・ピクセルアートの絵柄を考え、制作する ・相互鑑賞

令和８年度　熊本県阿蘇中央高等学校　年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
書道Ⅰ	普通科、探究科、総合ビジネス科、農と食の科学科、緑と水の科学科、社会福祉科・１年	2		○	

使用教材	□書Ⅰ（光村図書）

科目の目標		
書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
４０％	３０％	３０％

<table>
<tr><th colspan="3">評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）</th></tr>
<tr><th>知識・技能</th><th>思考・判断・表現</th><th>主体的に学習に取り組む態度</th></tr>
<tr><td>B 評価の規準
［わかった・できた］
・書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けている。
・単元に関する知識を学び取っている。</td><td>B 評価の規準
［よく考え、意見を持ち、説明できた］
・用筆、運筆、字形を構想し工夫し、相手に伝えることができている。
・全体の調和や目的に則した表現形式など、意図に基づいて構想・工夫し、相手に伝えることができている。</td><td rowspan="2">B 評価の規準
［主体的］
・書の学習を通して自らの創造的な力を高めようとしている。自らの感性を高め、書の伝統と文化に親しもうとしている。
［粘り強さ］
・表現を模索し、工夫しながら取り組んでいる。

※作品やワークシートの未提出、私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人は C 評価となります。</td></tr>
<tr><td colspan="2">※定期考査は実施しません。
提出された作品やワークシート
、授業態度で評価します。</td></tr>
<tr><td colspan="3">特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="4">学習計画</th></tr>
<tr><th>月</th><th>単元</th><th>時数</th><th>学習項目</th></tr>
<tr><td>4</td><td>オリエンテーション</td><td>4</td><td>・中学校国語科書写で学んだことの確認
・用具用材について～文房四宝～
・姿勢や執筆法</td></tr>
<tr><td>5</td><td>【漢字の書】
楷書の学習
楷書古典の鑑賞、比較</td><td>2</td><td>・楷書の特徴
・表現の比較</td></tr>
<tr><td>6</td><td>楷書古典の臨書
①九成宮醴泉銘</td><td>5</td><td>・九成宮醴泉銘の臨書
直線的で鋭い点画
緻密に構成された点画
縦長で背勢</td></tr>
</table>

7	②牛橛造像記	5	・牛橛造像記の臨書 鋭角的な点画 点画の角張った字形(方勢)
8			
9	③顔氏家廟碑	5	・顔氏家廟碑の臨書 力のこもった用筆 蚕頭燕尾 正方形で向勢
10	楷書の創作	6	・既習の楷書古典の中から一つ選ぶ ・古典の特徴を生かした創作作品の制作
11	行書の学習 行書古典の臨書 ①蘭亭序	6	・行書の特徴 ・蘭亭序の臨書 流れの中に抑揚を利かせた用筆 多様な字形
12	②風信帖	5	・風信帖の臨書 重厚感のある用筆 安定した字形
1 2	【仮名の書】 仮名の学習 古筆の臨書	1 2	・仮名の成り立ちについて ・いろは(単体) ・蓬莱切 ・三色紙(散らし書き) ・創作
3	【漢字仮名交じりの書】 漢字仮名交じりの書の学習 漢字仮名交じりの書の創作	1 1	・漢字仮名交じりの書の変遷 ・表現の工夫 ・相互鑑賞

令和８年度　熊本県阿蘇中央高等学校　年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
英語コミュニケーションⅠ	農と食の科学科 緑と水の科学科 社会福祉科 １年	3		○	

使用教材	□ VISTA English Communication Ⅰ New Edition（三省堂）

科目の目標		
外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・それぞれのLessonにおいて、新しく学習する文法事項や、これまで学習した文法事項の表現に注意しながら、内容を理解する技能を身に付けている。 ・文章の趣旨を考えながら、その内容について詳しく話して伝える技能を身に付けている。 ・文章の内容について基本的な語句や文を用いて、詳しく書いたりする技能を身に付けている。	・文章についての概要や要点、必要な情報を、聞き取って捉えている。 ・文章の趣旨を考えながら、その内容について詳しく話して伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。 ・文章の内容について基本的な語句や文を用いて、詳しく書いて伝えている。	・文章についての概要や要点、必要な情報を、主体的に聞き取って捉えようとしている。 ・理解を深めるために、文章の趣旨を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 ・文章の趣旨を考えながら、その内容について主体的に詳しく話して伝えようとしている。 ・文章の内容について基本的な語句や文を用いて、主体的に詳しく書いて伝えようとしている。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
５０％	２０％	３０％

<table>
<tr><th colspan="3">評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）</th></tr>
<tr><th>知識・技能</th><th>思考・判断・表現</th><th>主体的に学習に取り組む態度</th></tr>
<tr><td>B 評価の規準
［文法理解］
・文法について理解しており、プリントやノート等に適切にまとめている。
［話すこと、書くこと］
・本文の内容について、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話したり、書いたりして伝える技能を身につけている。</td><td>B 評価の規準
［話すこと］
・本文の内容について、情報や考え、気持ち等を論理的に伝えたり、話したりしている。
［書くこと］
・本文の内容について、情報や考え、気持ち等を論理的に書いて伝えている。</td><td rowspan="2">B 評価の規準
［書くこと］
・本文の内容について、話し手に配慮しながら、主体的に話を聞き、聞いた内容をプリントやノート等に適切にまとめている。
［読むこと、話すこと］
・本文の内容について、聞き手に配慮しながら、主体的に書かれていることについて読んだり、話したりしている（発音練習、発表などが含まれます）。
※授業への不参加や授業中の居眠りが目立ったり、私語が多く周囲の学習の妨げになる場合はＣ評価となります。</td></tr>
<tr><td colspan="2">※「知識・技能」は、定期考査や単元テストで主に判断します。
※「思考・判断・表現」は、定期考査やスピーキングテスト等で主に判断します。</td></tr>
<tr><td colspan="3">成果や内容が特に顕著な場合は Ａ評価 とします。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="4">学習計画</th></tr>
<tr><th>月</th><th>単元</th><th>時数</th><th>学習項目</th></tr>
<tr><td rowspan="5">4</td><td>授業オリエンテーション</td><td>2</td><td>・授業の進め方、学習方法についての説明
・年間学習指導計画及び評価基準の説明</td></tr>
<tr><td colspan="3">● ＡＬＴとのティームティーチングを実施（月に２～３時間程度）
● 個別にスピーキングテストを実施（年２回、１・３学期）</td></tr>
<tr><td>Get Ready 1</td><td>1</td><td>・アルファベットの書き方</td></tr>
<tr><td>Get Ready 2</td><td>1</td><td>・辞書の引き方</td></tr>
<tr><td>Get Ready 3</td><td>1</td><td>・クラスルームイングリッシュ</td></tr>
<tr><td></td><td>ののちゃん英文法</td><td>2</td><td>・中学で学んだ主語、be 動詞、一般動詞、目的語、形容詞、副詞、前置詞、冠詞を確認する。</td></tr>
</table>

4	Pre-Lesson 1　Hello, Kai! Hi, Emma!	1	・登場人物が自己紹介する内容を参考に、ペアやグループで自己紹介し合う。 【be 動詞の現在形】
5	Pre-Lesson 2　I Love Manga!	1	・登場人物が、自分の好きなものについて紹介し合う内容を参考に、自分の好きなものについて対話する。 【一般動詞の現在形】
	Lesson 1　The Aurora	4	・北極・南極地方で多く見られるオーロラ。美しいオーロラはどのようにして現れるのか、その仕組みについて概要や要点を聞き取ったり読み取ったりする。 【be 動詞・一般動詞の過去形】
5 ・ 6	Lesson 2　Soy Meat	4	・肉に代わる食品として注目されている大豆ミート。その利点について考え、概要や要点を聞き取ったり読み取ったりする。 【現在進行形・過去進行形】
6	表現活動	3	・自由英作文や発表を実施
	Lesson 3　Capsule Toys	4	・日本のいたるところに設置され、大人気のカプセルトイ。その起源や魅力について、概要や要点を聞き取ったり読み取ったりする。 【助動詞】
7	Lesson 4　Pictograms	4	・オリンピック競技や温泉マークのピクトグラムを例に、社会におけるピクトグラムの役割について概要や要点を聞き取ったり読み取ったりする。【動名詞】
9	Lesson 5　We Are Part of Nature	4	・動物写真家の岩合光昭さんへのインタビューから、良い写真を撮るための秘訣や自然に対する思いを聞き取ったり読み取ったりする。 【不定詞】
10	Lesson 6　A Small, but Happy Country	4	・世界で２番目に人口が少ない南太平洋の国、ニウエ。人々の暮らしから「幸せとは何か」を考える。【現在完了形】
	表現活動	3	・自由英作文や発表を実施
11	Lesson 7　AI and Sports Refereeing	4	・スポーツ競技の判定にＡＩが使われている。人間の審判との今後の関係を考える。【受け身】
12	Lesson 8　Is there a Santa Claus?	4	・サンタクロースは本当にいるの？アメリカの新聞に投稿された子どもからの質問と、編集者からの答えを聞き取ったり読み取ったりする。 【名詞を修飾する分詞】

1	Lesson 9　Kid’s Guernica	5	・ピカソが描いた『ゲルニカ』と、１９９５年に発足した「キッズゲルニカ」。そこに共通する平和への願いをについて、聞き取ったり読み取ったりする。　【関係代名詞】
1・2	Lesson 10　Ethical Fashion	5	・地球環境を守り、かつ労働者の権利を尊重して作られた衣服「エシカルファッション」について学ぶ。　【比較】
2	表現活動	3	・自由英作文や発表を実施
2・3	Enjoy Reading　Time Noodles	6	・落語の『時そば』を芝居仕立てに書かれたものを読む。【関係副詞・仮定法過去】

令和８年度　熊本県阿蘇中央高等学校　年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
農業と環境	農と食の科学科・１年 緑と水の科学科・１年	3			○

使用教材	□農業と環境（実教出版） □プリント

科目の目標		
農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野で活用する基礎的な資質・能力を次の通り育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
農業と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する知識、技術を身に付けるようにする。	農業と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	農業と環境について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるように自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ共同的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
４０％	３０％	３０％

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B評価の規準 ［わかった・身についた］ ・農業と環境について体系的・系統的に理解することができた。 ・農業と環境に関連する知識、技術を身に付けることができた。	B評価の規準 ［よく考え・意見を持ち・表現することができた］ ・農業と環境に関する課題を発見することができた。 ・農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決できた。	B評価の規準 ［積極的に行動できた・協働することができた］ ・農業と環境について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるように自ら学ぶことができた。 ・農業の振興や社会貢献に主体的かつ共同的に取り組んだ。

※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。	
特に顕著な成果・内容の場合はＡ評価とします。	

学習計画			
月	単元	時数	学習項目 ■：栽培に関するプロジェクト
4	第１章　農業と環境を学ぶ	2	1　農業学習とは何か
		2	2　農業と環境の学び方 ・プロジェクト学習の意義と方法、進め方
	■第４章　栽培・飼育と環境のプロジェクト	2	■スイートコーンの播種
5		2	3　学校農業クラブ活動
		2	・農業鑑定競技
	第３章　栽培と飼育の基礎	2	1　作物の特性と栽培のしくみ
	■第４章　栽培・飼育と環境のプロジェクト	2 2 2	■イネ田植え ■圃場の準備 ■スイートコーンの定植、夏野菜の定植
6	第３章　栽培と飼育の基礎	8	1　作物の特性と栽培のしくみ
	■第４章　栽培・飼育と環境のプロジェクト	4	■スイートコーンの栽培　■夏野菜の栽培 ■生育調査
7	第３章　栽培と飼育の基礎	7	1　作物の特性と栽培のしくみ 2　作物をとりまく環境とその管理
	■第４章　栽培・飼育と環境のプロジェクト	3	■スイートコーンの栽培　■夏野菜の栽培 ■生育調査　■収穫と利用
8			
9	第３章　栽培と飼育の基礎	4 2	2　作物をとりまく環境とその管理 3　家畜の特性と飼育
	■第４章　栽培・飼育と環境のプロジェクト ア　ハクサイの栽培と利用 イ　ダイコンの栽培と利用	2 2 2	■冬野菜の播種・育苗 ■圃場の準備 ■イネ収穫
10	第２章　私たちの暮らしと農業・農村	6	1　人間と植物・動物とのかかわり 2　農業と食料供給 3　農業・農村の役割

			4　これからの社会と農業・農村
	■第４章　栽培・飼育と環境のプロジェクト	2 4	■イネの収穫、乾燥、脱穀、調製について ■冬野菜の栽培　■生育調査
11	第２章　私たちの暮らしと農業・農村	6	1　人間と植物・動物とのかかわり
	■第４章　栽培・飼育と環境のプロジェクト	3	■冬野菜の栽培　■生育調査
12	第２章　私たちの暮らしと農業・農村	5	2　農業と食料供給 3　農業・農村の役割 4　これからの社会と農業・農村
	■第４章　栽培・飼育と環境のプロジェクト	2	■冬野菜の栽培 ■生育調査　■収穫と利用
1	第２章　私たちの暮らしと農業・農村	4	2　農業と食料供給 3　農業・農村の役割 4　これからの社会と農業・農村
	■第４章　栽培・飼育と環境のプロジェクト	3	■プロジェクト学習まとめ
2	第２章　私たちの暮らしと農業・農村	4	3　農業・農村の役割
	■第４章　栽培・飼育と環境のプロジェクト	3	■プロジェクト学習まとめ
3	第２章　私たちの暮らしと農業・農村	2	4　これからの社会と農業・農村
	■第４章　栽培・飼育と環境のプロジェクト	4	■プロジェクト学習まとめ ■発表会

計 100

（目安）

内容	時数	時期
第１章　農業と環境を学ぶ	8	４月、５月
第２章　私たちの暮らしと農業・農村	27	１０月、１１月、１２月 １月、２月、３月
第３章　栽培と飼育の基礎	23	５月、６月、７月、９月
■第４章　栽培・飼育と環境のプロジェクト トウモロコシの栽培と利用 ハクサイの栽培と利用 ダイコンの栽培と利用	42	通年

計 100

令和8年度　熊本県阿蘇中央高等学校　年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
総合実習	農と食の科学科・１年	３(1)			

使用教材	□学習プリント（ワークシート等） □授業の記録シート

科目の目標		
農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野の改善を図る実践的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 （２）農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 （３）農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
４０％	３０％	３０％

<table>
<tr><th colspan="3">評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）</th></tr>
<tr><th>知識・技能</th><th>思考・判断・表現</th><th>主体的に学習に取り組む態度</th></tr>
<tr><td>B 評価の規準
［わかった、できた］
・よりよい作物栽培を実現するための知識を備えている。
・その時間の実習の目的を理解し、適切な管理実習ができる。
・黒板・話の内容、自分の感想や疑問点などをメモに残している。</td><td>B 評価の規準
［よく考え、意見を持ち、説明できた］
・よりよい作物栽培について考えることができる。
・授業や実習を通して疑問を持ち、質問したり記録用紙に記入したりしている。
・その時間、得た知識や学んだことを説明できる。</td><td rowspan="2">B 評価の規準
［気づき、理解しようとする態度］
・座学や実習を通した気づきがあり、話したり記録したりすることができる。
・理解するために行動できる（質問する、調べる）。
［実習態度］
・安全に気を付けて取り組むことができる（身だしなみ、返事、声掛け、授業準備等）。</td></tr>
<tr><td colspan="2">※定期考査</td></tr>
<tr><td colspan="3">特に顕著な成果・内容の場合はＡ評価とします。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="4">学習計画</th></tr>
<tr><th>月</th><th>単元</th><th>時数</th><th>学習項目</th></tr>
<tr><td rowspan="3">4</td><td>総合実習ガイダンス</td><td>1</td><td>栽培と飼育学習の特質</td></tr>
<tr><td>実習服の着こなし</td><td>1</td><td></td></tr>
<tr><td>本校作物と畜産の現状</td><td>4</td><td>施設見学、家畜の種類と飼育環境</td></tr>
<tr><td rowspan="3">5</td><td>プロジェクト学習について</td><td>4</td><td>プロジェクト学習の特性について</td></tr>
<tr><td>プロジェクト学習の実践</td><td>2</td><td></td></tr>
<tr><td>PDCA サイクルによるプロジェクト学習の方法</td><td>2</td><td>PDCA サイクルの理解、課題設定によるテーマの決定</td></tr>
<tr><td rowspan="4">6</td><td>作物の特性と管理方法</td><td>4</td><td>栽培管理</td></tr>
<tr><td>農業鑑定競技（共通）</td><td>4</td><td>農業鑑定競技に向けた共通問題の学習</td></tr>
<tr><td>作物の生育と生理</td><td>2</td><td>作物の生育とその一生についての学習</td></tr>
<tr><td>作物の生育調査</td><td>2</td><td>作物の生育調査</td></tr>
<tr><td rowspan="3">7</td><td>プロジェクト学習のまとめ</td><td>6</td><td>資料作りと記録の振り返り</td></tr>
<tr><td>プロジェクト学習の中間報告</td><td>2</td><td>口頭発表</td></tr>
<tr><td>刈払い機の構造と操作</td><td>4</td><td>刈払い機の構造と操作</td></tr>
<tr><td>8</td><td>栽培管理と生育調査</td><td>3</td><td>栽培管理と生育調査</td></tr>
</table>

9	イネの栽培管理	8	イネの収穫と調整
	農業技術検定の練習問題	4	過去問等から、調べ学習と実物の観察
10	農業鑑定競技（栽培系）	6	農業鑑定競技の学習
	生育と収量の診断	4	生育と収量の診断
11	イネの６次産業	6	ポン菓子について地域交流
	ウシ・ブタの特性と管理方法	4	ウシ・ブタの行動や習性に合わせた適切な飼育管理の方法
12	ウシ・ブタの体の特徴	4	体の部位名、部位の特徴を理解し、ウシ・ブタとの接触方法
	ウシ・ブタの飼育環境と地域環境	4	動物福祉の視点から、畜産業の実際について学習
1	畜舎及び周辺の環境整備	3	野生動物侵入防止及び樹木等の管理
	ウシの分娩と子牛の管理方法	3	ウシの分娩環境と分娩の様子を観察し、分娩後の子豚の管理について学習
	ブタの分娩と子豚の管理方法	3	ブタの分娩環境と分娩の様子を観察し、分娩後の子豚の管理について学習
2	ウシ・ブタの繁殖方法	3	繁殖牛と繁殖豚の特性と繁殖の方法
3	プロジェクト学習のまとめ	2	プロジェクト学習の成果のまとめ、結果の分析
	プロジェクト学習の発表	2	プロジェクト学習の成果の発表
	年間の振り返り、面談	2	年間の振り返り

令和８年度　熊本県阿蘇中央高等学校　年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
農業と情報	農と食の科学科・１年	2		○	

使用教材	□教科書　農業と情報（実教出版） □補助教材　-新編-情報Ⅰ（東京書籍）

科目の目標		
農業の見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して，農業に関する情報を主体的に活用するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
農業の各分野における情報と情報技術を活用した問題の発見・解決等の方法や、情報化の進展が社会の中で果たす役割や影響、情報に関する法律・規則やマナー、個人が果たす役割や責任等について、学校での実習や産業現場での体験を通し、その情報や情報技術を目的や条件に合わせて効果的に使いこなすことができる知識と技術を体系的・系統的に理解し身につけるようにする。	進展する情報社会の特徴や、多様で大量の情報と情報技術が産業社会や人間に与える影響、農業への先進技術や革新技術の活用方法などに関して考察したり、環境への配慮や法令遵守などの職業人に求められる倫理観をもち、科学的な根拠などに基づいて効果的に説明したり、創造的に解決する力を養う。	農業情報を活用した事例を基に、環境保全や農林業の持続的発展に果たす意義や役割に関心をもちながら、その仕組みや効果について体系的・系統的に理解する大切さについて自覚を深め、また各種の情報の価値を適切に判断し、情報通信ネットワークを活用した情報の収集、情報手段を用いた調査・分析・統合・加工・発信ができる技術の習得に対して、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

<table>
<tr><th colspan="3">評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）</th></tr>
<tr><th>知識・技能</th><th>思考・判断・表現</th><th>主体的に学習に取り組む態度</th></tr>
<tr><td>B 評価の規準
［わかった・できた］
・タイピングが正しくできた。
・学習内容に沿って、情報や情報技術を効果的に使用することができた。
・課題内容を理解し、課題を解決するための適切な情報や情報技術を使用することができた。</td><td>B 評価の規準
［考えることができた・適切な選択、活用ができた・説明できた］
・課題を解決するために自らの考えを、科学的な根拠を用いて説明できた。
・仲間と協力して行う課題に対して、仲間の意見を聞き、まとめることができた。</td><td rowspan="2">B 評価の規準
［粘り強さ］
・学習活動に一生懸命に取り組み、仲間と協力して考え、課題を解決する方法を自ら模索しようとしている。
［自らの学習への工夫］
・教師の説明をメモしたり、自分なりにわかりやすいようにまとめるなどしている。また、課題を解決するだけではなく、さらに新たな課題を自ら考え、解決しようとしている。

※眠っている人、私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人はＣ評価となります。</td></tr>
<tr><td colspan="2">※　定期考査では主に、「知識・技能」「思考・判断・表現」を判断します。</td></tr>
<tr><td colspan="3">特に顕著な成果・内容の場合はＡ評価とします。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="4">学習計画</th></tr>
<tr><th>月</th><th>単元</th><th>時数</th><th>学習項目</th></tr>
<tr><td rowspan="2">4</td><td>オリエンテーション</td><td>2</td><td>・コンピューター教室のルールを理解する</td></tr>
<tr><td>情報における私たちの生活</td><td>4</td><td>・情報の意義と役割
・インターネットと情報社会</td></tr>
<tr><td>5</td><td>情報とメディア</td><td>6</td><td>・情報の特徴
・情報の性質
・メディアの特徴
・メディアリテラシー</td></tr>
<tr><td>6</td><td>情報社会とモラル</td><td>6</td><td>・情報社会の光と影
・情報化への対応
・コミュニケーションの基本
・SNS の機能
・個人情報の取り扱い</td></tr>
</table>

			・知的財産の保護
7 8	農業を支える情報	8	・農業における情報の役割 ・情報活用による農業の発展 ・データ活用の新しい農業 ・学校農場における情報の利用
9 10	コンピューターの仕組み	2	・ハードウェア ・ソフトウェア
	データや情報の表現	3	・コンピューターで処理される情報 ・2 進数と情報量 ・データや情報の種類
	情報通信ネットワーク	2	・情報通信ネットワークとその種類 ・ネットワークの仕組みと特徴
	インターネットのしくみ	4	・インターネットの概要 ・電子メールの利用
	情報セキュリティ	3	・情報システムの脅威 ・セキュリティシステム
11 12	情報表現のためのソフトウェア	2	・情報の活用 ・ソフトウェアの利用 ・様々なアプリケーションソフトウェア
	文書の作成と表現	10	・文書作成ソフトウェアの概要 ・文書ソフトウェアの基本操作 ・ビジネス文書の書き方
1 2 3	スマート農業のめざす将来	2	・農業の課題と将来 ・データと精密農業 ・データとスマート農業 ・スマート農業の目標としくみ
	システム開発と設計	2	・私たちの生活と情報システム ・システムの設計
	プログラムの設計	10	・プログラムの設計
	計測と制御 リモートセンシングと GIS 人工知能	4	・計測と制御 ・リモートセンシング ・地理情報システム ・人工知能と農業

令和８年度　熊本県阿蘇中央高等学校　年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
食品製造（実験）	農と食の科学科・１年	２			

使用教材	□食品製造（実教出版） □配布プリント

科目の目標		
農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食品製造に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
食品製造について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	食品製造に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	食品製造について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
５０％	３０％	２０％

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 ［わかった・身についた］ ・食品製造について体系的・系統的に理解することができた。 ・関連する技術を身に付けることができた。	B 評価の規準 ［ＰＤＣＡ学習ができた］ ・食品製造に関する課題を発見することができた。 ・農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養うことができた。	B 評価の規準 ［積極的に行動できた・班員の意見を取り入れた］ ・食品製造について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学ぶことができた。 ・農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことができた。

※定期考査 （１学期期末考査、２学期中間・期末考査、学年末考査） ※レポート・実験成果・発表を主に３観点を評価する。	
顕著な成果・内容の場合はＡ評価とし、成果・内容が不十分な場合はＣ評価とします。	

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4			
	食品製造における科学的根拠の意義	2	「食品化学」と「食品微生物」分野の学習の進め方について理解することができる
5	顕微鏡	2	顕微鏡操作と微生物の観察実験ができる
6	微生物	2	微生物について理解することができる
	微生物	2	発酵と腐敗について理解することができる
7	微生物	2	手指・空中落下菌の採取実験ができる
8	微生物	2	コロニーの観察と塗抹による純粋培養実験ができる
9	微生物	2	純粋培養観察とまとめができる
	微生物	2	食中毒について理解することができる
10	炭水化物	2	炭水化物について理解することができる
	炭水化物	2	銀鏡反応実験ができる
11	タンパク質	2	タンパク質について理解することができる
	タンパク質	2	ビュレット反応実験ができる
12	脂質	2	脂質について理解することができる
1	脂質	2	手作り石鹸製ができる
2	コピー（フェイク）食品	2	コピー（フェイク）食品について理解することができる
3	コピー（フェイク）食品	2	人工イクラの製造実験ができる

令和８年度　熊本県阿蘇中央高等学校　年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
食品製造（実習）	農と食の科学科・１年	２			

使用教材	□食品製造（実教出版） □配付プリント

科目の目標		
農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食品製造に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
食品製造について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	食品製造に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	食品製造について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
５０％	３０％	２０％

<table>
<tr><th colspan="3">評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）</th></tr>
<tr><th>知識・技能</th><th>思考・判断・表現</th><th>主体的に学習に取り組む態度</th></tr>
<tr><td>B 評価の規準
［わかった・身についた］
・食品製造について体系的・系統的に理解することができた。
・関連する技術を身に付けることができた。</td><td>B 評価の規準
［ＰＤＣＡ学習ができた］
・食品製造に関する課題を発見することができた。
・農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養うことができた。</td><td rowspan="2">B 評価の規準
［積極的に行動できた・班員の意見を取り入れた］
・食品製造について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学ぶことができた。
・農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことができた。</td></tr>
<tr><td colspan="2">※定期考査では、主に「知識・技能」「思考・判断・表現」を判断します。</td></tr>
<tr><td colspan="3">顕著な成果・内容の場合はＡ評価とし、成果・内容が不十分な場合はＣ評価とします。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="4">学習計画</th></tr>
<tr><th>月</th><th>単元</th><th>時数</th><th>学習項目</th></tr>
<tr><td>4</td><td>食品産業の現状と動向</td><td>2</td><td>食品製造の意義</td></tr>
<tr><td rowspan="2">5</td><td>食品の製造実習</td><td>2</td><td>穀類、小麦粉：絞り出しクッキー</td></tr>
<tr><td>食品の製造実習</td><td>2</td><td>穀類、小麦粉：型抜きクッキー</td></tr>
<tr><td>6</td><td>食品産業の現状と動向</td><td>2</td><td>食品産業の現状と動向</td></tr>
<tr><td>7</td><td>食品の製造実習</td><td>2</td><td>穀類、小麦粉：マドレーヌ</td></tr>
<tr><td>8</td><td>食品の製造実習</td><td>2</td><td>穀類、小麦粉：パウンドケーキ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">9</td><td>食品の製造実習</td><td>2</td><td>穀類、小麦粉：まるめパン</td></tr>
<tr><td>食品の製造実習</td><td>2</td><td>穀類、小麦粉：メロンパン</td></tr>
<tr><td rowspan="2">10</td><td>食品製造の基礎</td><td>2</td><td>食品の分類</td></tr>
<tr><td>食品の製造実習</td><td>2</td><td>穀類、豆類：ようかん</td></tr>
<tr><td>11</td><td>食品の安全性と品質表示</td><td>2</td><td>食品の変質と貯蔵</td></tr>
<tr><td rowspan="2">12</td><td>食品の製造実習</td><td>2</td><td>穀類、小麦粉：スポンジケーキ</td></tr>
<tr><td>食品の製造実習</td><td>2</td><td>穀類、小麦粉：デコレーションケーキ</td></tr>
<tr><td>1</td><td>食品の製造実習</td><td>2</td><td>穀類、米粉：みたらし団子</td></tr>
<tr><td>2</td><td>製造原理と原材料特性</td><td>2</td><td>食品の包装と表示</td></tr>
<tr><td>3</td><td>食品の製造実習</td><td>2</td><td>穀類、米粉、果実：いちご大福</td></tr>
</table>